



復然子規の書に

就中環相前生

す唐子規の書

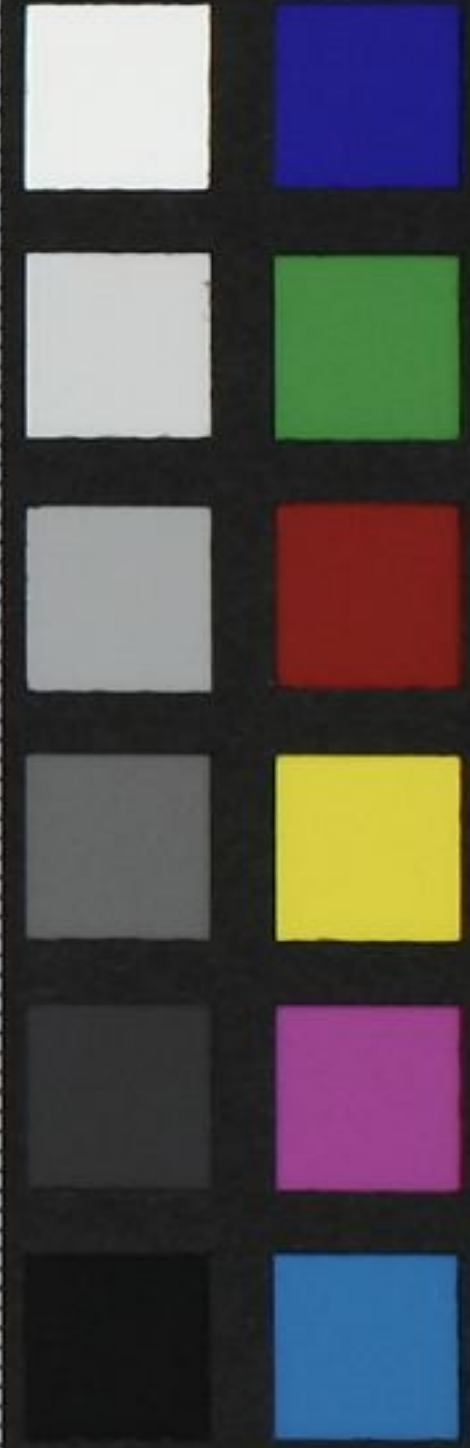
は同女とあるは

如く

子規先生宛の書

JAPAN

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3



如心也

予起先と山をみるく

忠孝の正道、真の面目

に書かす(一)を又必す

何の事いあるも心をあ

る。

又曰く白から細から

と思つた字を能く

誼をい見ること

心持せぬは習ふはあ

心城ヤルは羽はちく

ても書は上のやぶて

ある。

子規先生晩年自

かの書は信とあるあつ

こりけなるかつと鳥卵

義ある字より書きたる

何らふ本は無いら

うかともりなを丸

家とふ本は無かつ

家々子々は無かつ

けんとも 國治三十五身

此の先きの字は余程

無お氣ある

亦の他一こ ~~の~~ 字

と書かれた先生は

習字として左字は無

かつた

中におろおろ回く

子規子の書なま

オである

才ぶあると

子規先考の書

星野の書

9月10日の夜

木島

十日三十一夜

土生

石生

内閣

文

省代信
夫郡賴上町
月月春
雄操



三月十日

本所
伊好左夫

内尚見

送

石生

伊藤左千夫書簡

門間春雄宛



特別

文庫14

C47

